【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成28年7月21日(2016.7.21)

【公開番号】特開2016-104134(P2016-104134A)
【公開日】平成28年6月9日(2016.6.9)
【年通号数】公開・登録公報2016-035
【出願番号】特願2015-228764(P2015-228764)
【国際特許分類】
Ａ６３Ｆ　7/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６３Ｆ　7/02　３１５Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成28年6月7日(2016.6.7)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
遊技球の入賞が困難な閉止状態と、前記閉止状態と比較して遊技球の入賞が容易な開放状態と、を形成することが可能な可変入賞装置と、
前記可変入賞装置への遊技球の入賞を契機として、特賞状態を生起させるか否かを決定する第１抽選を実行する抽選手段と、
前記第１抽選が実行された場合に、表示手段において、識別情報の変動表示を行った後に、当該第１抽選の結果に対応する態様による識別情報の停止表示を行う表示制御手段と、
遊技球による所定領域の通過を契機として実行された第２抽選に当選した場合に、前記可変入賞装置を前記閉止状態から前記開放状態へと変位させる入賞口開放遊技状態を生起させる入賞口開放遊技状態制御手段と、
前記入賞口開放遊技状態における前記可変入賞装置が前記開放状態とされる時間を当該制御が実行されていない場合と比較して延長する開放時間延長制御を実行することが可能な開放時間制御手段と、
前記表示制御手段により前記識別情報の変動表示が行われる時間を当該制御が実行されていない場合と比較して短縮する変動時間短縮制御を実行することが可能な変動時間制御手段と、
所定のフラグが設定されていない際に前記第１抽選により前記特賞状態を生起させることが決定される確率が第１確率となる第１抽選確率状態を生起させること、及び前記所定のフラグが設定されている際に前記第１抽選により前記特賞状態を生起させることが決定される確率が前記第１確率より高い第２確率となる第２抽選確率状態を生起させることが可能な抽選確率制御手段と、を備え、
前記開放時間制御手段は、
前記第２抽選確率状態が生起されている際に、前記開放時間延長制御を実行し、前記第１抽選確率状態が生起されている際に、開放時間延長制御を実行せず、
前記変動時間制御手段は、
前記第２抽選確率状態が生起されている際に、前記変動時間短縮制御を実行することを特徴とする遊技機。
【請求項２】

前記特賞状態が生起された際に開放状態となる大入賞口と、
賞球の払い出しを制御する払出制御手段と、を備え、
前記払出制御手段は、
遊技球が前記所定領域を通過したことが検知された際に賞球の払い出しを行わず、遊技球が前記大入賞口に入賞した際に、遊技球が前記可変入賞装置に入賞した際に払い出される賞球数よりも多い数の賞球の払い出しを行うこと
を特徴とする請求項１記載の遊技機。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
上記目的を達成するために、第一の発明に係る遊技機は、遊技球の入賞が困難な閉止状態と、前記閉止状態と比較して遊技球の入賞が容易な開放状態と、を形成することが可能な可変入賞装置と、前記可変入賞装置への遊技球の入賞を契機として、特賞状態を生起させるか否かを決定する第１抽選を実行する抽選手段と、前記第１抽選が実行された場合に、表示手段において、識別情報の変動表示を行った後に、当該第１抽選の結果に対応する態様による識別情報の停止表示を行う表示制御手段と、遊技球による所定領域の通過を契機として実行された第２抽選に当選した場合に、前記可変入賞装置を前記閉止状態から前記開放状態へと変位させる入賞口開放遊技状態を生起させる入賞口開放遊技状態制御手段と、前記入賞口開放遊技状態における前記可変入賞装置が前記開放状態とされる時間を当該制御が実行されていない場合と比較して延長する開放時間延長制御を実行することが可能な開放時間制御手段と、前記表示制御手段により前記識別情報の変動表示が行われる時間を当該制御が実行されていない場合と比較して短縮する変動時間短縮制御を実行することが可能な変動時間制御手段と、所定のフラグが設定されていない際に前記第１抽選により前記特賞状態を生起させることが決定される確率が第１確率となる第１抽選確率状態を生起させること、及び前記所定のフラグが設定されている際に前記第１抽選により前記特賞状態を生起させることが決定される確率が前記第１確率より高い第２確率となる第２抽選確率状態を生起させることが可能な抽選確率制御手段と、を備え、前記開放時間制御手段は、前記第２抽選確率状態が生起されている際に、前記開放時間延長制御を実行し、前記第１抽選確率状態が生起されている際に、開放時間延長制御を実行せず、前記変動時間制御手段は、前記第２抽選確率状態が生起されている際に、前記変動時間短縮制御を実行することを特徴とする。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
第一の発明に係る遊技機では、開放時間制御手段が、変動時間短縮制御の実行に同期させずに、開放時間延長を実行する。具体的には、第２抽選確率状態が生起されている際には、開放時間延長制御及び変動時間短縮制御の両方が実行される。一方、第１抽選確率状態が生起されている際には、開放時間延長制御が実行されない。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】

これにより、第１抽選確率状態及び第２抽選確率状態のうちいずれの状態が生起されているかに応じて、遊技球が可変入賞装置に入賞する可能性を変化させることができる。

したがって、第一の発明に係る遊技機では、可変入賞装置による遊技性を向上することができ、遊技の興趣を向上することが可能となる。

【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】

また、第二の発明に係る遊技機は、第一の発明に係る遊技機において、前記特賞状態が生起された際に開放状態となる大入賞口と、賞球の払い出しを制御する払出制御手段と、を備え、前記払出制御手段は、遊技球が前記所定領域を通過したことが検知された際に賞球の払い出しを行わず、遊技球が前記大入賞口に入賞した際に、遊技球が前記可変入賞装置に入賞した際に払い出される賞球数よりも多い数の賞球の払い出しを行うことを特徴とする。

【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】削除
【補正の内容】